

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100966		
法人名	株式会社 しずく		
事業所名	グループホーム しずくいし ①		
所在地	〒020-0572 岩手県岩手郡雫石町西安庭15-81-26		
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果市町村受理日	令和3年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

園芸療法と音楽療法を取り入れ、認知症の進行を穏やかにするとともに、馴染みの関係を継続し、つながりを大切にしています。
 コロナ禍で制限が多い中、出来る限りの家族との関わりや施設内での行事を充実し、安心した生活を提供できるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社員寮を改築した2階建の2ユニットの事業所で、近くには御所湖、温泉地もあり、コロナ禍前には利用者と一緒に温泉に入ったりと恵まれた環境の中に位置している。近所の農家からの野菜差し入れ、お祭りなどの地域行事にも招待されるなど地域に溶け込んで交流している。事業所の前には広い庭があり、野菜をつくったり、花を植えたり散歩したりと憩いの場所となっている。茶椀拭きやテーブル拭きなど、利用者はそれぞれに役割を持って毎日を送っている。3年程前から利用者の日々の会話の中の言葉や歩き方の行動等から捉えられた職員が気づいた小さな変化等を書き留めるシートを作成し、それを介護計画に反映させるなどケアの充実を図っている。協力医療機関からの訪問診療、毎月のリハビリテーション関係者の派遣による医療機関との連携、常勤看護師の配置などにより、適切な医療やリハビリテーションを受けられる体制が整備されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に唱和して、理念の共有に心がけている	開設以来の運営理念について、職員全員で見直しを前提に話し合った結果、この理念に沿って実践できるとの意見で集約され、そのまま継続している。事務所に理念を掲示するとともに、朝礼時に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りに声をかけたり、夏休みに駐車場を開放しラジオ体操を行っていたが、コロナ渦のため、現在は中止している	これまでは敬老会等の事業所行事に地区の方を招待したり、地区の行事に参加していた。コロナ禍であるが、近所の農家から野菜の差し入れは継続され、こちらからは行事弁当を届けるなどして、今年も交流を継続している。事業所広報誌を安庭地区町内会で回覧してもらい、事業所の周知を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の民生委員や議員の見学が行われ、認知症について理解の機会になった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場福祉課、民生委員、行政区長の協力のもと開催している。現在はコロナ渦のため、文書配布のみで連絡を取り合っている	運営推進会議は、町職員、区長、民生委員で構成されている。現在は町からの通知により、2カ月に1回書面会議を開催し、資料を届けて意見等を伺っているが、資料による報告が主で意見等はない状況となっている。家族の参加を働きかけているが、まだ実現していない。	委員から意見が出やすいよう資料等を工夫して会議の活性化を図るとともに、地域からの意見を反映させるためにも、委員の増員や会議の内容に合わせて消防職員等の随時の参加など、様々な立場からの意見を事業運営に活かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	文書配布の際など福祉課の担当者と連絡を取っている	会議資料を届けるとき以外にも新型コロナ対策や加算の算定等について、電話やメールで分からないことや疑問に思ったことを聞くなど、日頃から連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束チェックシートを活用したり、勉強会を行い、身体拘束ゼロを共通実践するケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止も併せ担う身体拘束予防委員会を3カ月毎に開催している。職員は、チェックシートを記入することで自身の振り返りに繋がっている。スピーチロックに該当するか否かが曖昧な場合にも、職員間で話し合うなど身体拘束防止の意識が職場全体で高くなってきている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、理解に努めている。制度を活用し利用者も入所している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書類の読み上げを行い、理解したうえで捺印や署名をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の面会などの際に頂いた意見や要望は職員会議や申し送り、その他必要に応じて伝達されている	利用者ごとに普段の会話等から欲しい物等をチェックシートに記録して対応している。家族に利用者の現況を知らせるお便りを毎月届け、来所時には意見等を伺っている。受診時の家族送迎の際に医療機関に持参する連絡票は、家族の提案を具体化したものである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談の機会があり、反映されている	ユニット毎に毎月開催する職員会議の場で職員意見を把握し、また職員が意見や相談がある場合には、その都度に対応している。職員個々の目標シートに基づいて年2回行なっている個人面談も職員の意見等を聴き取る機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップ制度や処遇改善費や特定処遇改善費など給与面で整備に努めている。日頃から職員に声をかけ、労働状況の把握に努めている		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加をさせ、スキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議など多職種での交流やネットワークづくりに参加し活動している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活や行事などでの様子、会話を注意深く観察し言葉や行動に耳を傾けながら関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後、利用者がどのように過ごしてほしいのか、家族の意向や要望を聞き取りながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具、おむつ助成券や訪問診療、訪問看護などの利用についての説明や案内の対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や軽作業など職員と他入居者様と協力しながら行うことで馴染の関係づくりにつとめている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望や家族の意向を尊重し本人と家族のよりよい関係づくりに努めている		

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子どもや孫、兄弟などの面会や外出の継続。生活していた自宅付近へのドライブなど馴染みの場所、関係づくりに努めている	コロナ禍のため家族面会は事前予約制で対応しているが、自宅近辺へドライブするなど馴染みの場所に出かけることは継続している。来所する訪問診療の医師、リハビリ関係者、訪問理容師等は、利用者の新たな馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションの場をつくり、お互いが交流できる機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が他施設に移動しても情報の共有などでよりよい生活が継続できるよう支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新月にアセスメント記入しているが不安なこと、楽しんこと、やりたいことなど意向を聞き取ったり、意思疎通が難しい場合は日々の行動や訴えた言葉をくみ取るようにしている	利用者との会話や歩き方等、日々の生活の中で気づいた楽しいこと、やりたいこと、不安なことなどをシートに簡潔に記録し、職員の気づく力を高めるとともに、その記録は介護計画見直しの際にも活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に利用者の入居前の生活状態、生活歴、馴染みの場所、好きなことなどの記入をお願いしている。又、面会時などで聞き取ったかとも補訂として追加していくようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、やりたくないこと、個々に違っていることを念頭に利用者のペースに合わせて過ごせるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを実施し、利用者の変化やケア者からの気づき、家族からの意向、スタッフからの様々な意見が出ている。又、介護記録へも記入し、情報の共有に努めている	月1回開催されるカンファレンスで計画の実施状況を振り返り、3か月ごとにモニタリングと介護計画の見直しを行っている。月に1回来所する訪問診療の医師や理学療法士等からの意見を取り入れ、本人や家族の意向を反映した介護計画を作成している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン更新の利用者については気づきシートを各スタッフが記入している。記入することでここお利用者に対しての目配り、気配りの振り返りにもなっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイの利用もでき、本入居への移行も行われている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催の敬老会に参加したり、地区のお祭りなどを楽しむことがある。又、外部からのボランティアによる交流もあり、利用者の生活の刺激になっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療、精神科との連携を絶やさずに支援している	多くの利用者は月に1回の協力病院の訪問診療を受診している。これまでのかかりつけ医に継続受診する場合は家族送迎を原則としている。精神科等は入居前の医療機関を継続受診している。家族送迎の受診の際には、日常生活等の連絡票を家族に渡し、スムーズに受診できるよう支援している。常勤看護師が日常の健康管理を担当している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化は常に相談や確認し、指示を受けている。夜間も電話で対応の指示を受ける		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	各関係者と連絡を取り合い、入院中の様子を随時把握して、早期退院につなげている		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、主治医、訪問看護などの情報共有しながら取り組みを行ったことがあったが、現在は重度化や終末期を迎える前に入院することが多く、方針の共有や支援はできていない	入居に際して、頻繁に医療的行為が必要になるなど重度化が進行した場合の対応を指針に沿って説明し、本人・家族から了解を得ている。終末期直前まで主治医、訪問看護師と連携して対応した経験はあるが、最終的には入院となった例はある。入院や特別養護老人ホーム、老人保健施設の入所は、近隣に系列の関係施設がありスムーズに運んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い備えている。定期的に初期対応の訓練の継続が必要		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行い、災害時の対応に備えている	火災時の避難訓練を年に2回、水害時の避難訓練を年に1回実施している。避難訓練には地域の婦人消防協力隊も参加している。2階からの避難が課題と認識しているので、消防署からの指導・助言を得ながら、現実的な避難方法等を検討している。スプリンクラー、自家発電機等を整備し食料品等も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の状態に応じて、声のかけ方を工夫している。人生の先輩として敬意をもって対応するよう心掛けている	利用者の状態等を見ながら、誇りやプライバシーを傷つけないよう分かりやすい言葉で声かけをするようにしている。特に、トイレへの誘導時には周りの人に聞こえないように配慮しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの場面場面での表情や言葉を聞き逃さず、思いや意向をくみ取れるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位に努めているが、意欲の低下が著しい利用者に対しては意欲を刺激するような声掛けや工夫を行っている		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ぶことが難しい方、同じ衣類にこだわる方、できる範囲で対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全にできる事を手伝っていただいている。献立も会話の中から引き出し、組み入れている	普段の会話から利用者の希望を把握しながら、ユニットごとに職員が献立・調理している。茶碗やテーブル拭きなど、それぞれに役割を持ち、利用者自身が自分の仕事であるとの認識を持ち、全員で対応している。誕生日には、寿司や刺身など、利用者本人の希望したものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	口腔状態に応じた工夫を行っている。栄養士はいないが、食材の工夫やバランスに注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、歯科医からの助言をうけながら実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、誘導や声かけを行っている	リハビリパンツや尿とりパットを使用しているが、全員がトイレで排泄できている。把握した利用者の排泄パターンに沿って、夜間帯もトイレ誘導している。排泄の失敗が多くなってきたような場合には、早めの誘導に切り替えるなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の体調や排便習慣を把握し、水分や軽運動を実施しながら薬剤のも使用を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が難しいが、体調や希望に合わせて入浴している	週に2回、希望者には週に3回、午後1時から個別に3人が入浴している。入浴がない日には、足浴や清拭を行っている。異性介助を嫌がる利用者はいないが、希望すれば対応出来るようにしている。季節に応じた菖蒲湯や柚子湯のほか、香りを楽しむための入浴剤を使用して利用者がリラックスできるように工夫している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の照明、温度など個々に合わせた空間づくりを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況や変更などは看護師の指示のもと確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人差があるが、消極的な利用者には参加を促すよう工夫を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に希望通りとはいかないが、季節ごとにドライブや散歩に出かけている。	時々ドライブに出かけているが、コロナ禍のため車窓から眺めているだけにしている。普段は近くの団地や事業所の周りを散歩したり、広い事業所の庭で野菜づくり、花壇の手入れなどを行っている。天気が良い時には椅子を庭に出して日向ぼっこをして時間がゆっくり流れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使用は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や敬老の日などの記念日に家族からの電話や手紙、訪問がある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた室内ディスプレイを工夫している。照明や音にも配慮している	ホールや廊下には季節に合わせた貼り絵や行事写真が貼ってある。利用者の誕生日カード1年分を貼りだし、皆で見れるようになっている。ホールには大きなテーブルやソファ、テレビが配置され、居心地良く過ごせるようになっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム しずくいし ①

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他入居者を招き入れて談笑したり、個々の時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってきた写真や家具を置いている。自分の暮らしやすいよう工夫をしている利用者もいる	居室は、6畳間と8畳間の二つのタイプが用意され、8畳間の居室にはクローゼットがあり、全室にはベッド、エアコン、ストーブが設置されている。使い慣れた机や仏壇などを持ってきている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にはネームプレート、トイレや浴室には大きく表示している。歩行の妨げにならないよう置くものは最小限にしている		